

オリエンテーリングの中のオリエンテーリング。それがロング種目だ。宮内・元木が栄光の巨大地図を手にした。

愛知世界選手権大会 2005  
2005年8月8日(月) 予選  
愛知県作手村菅沼地区  
2005年8月12日(金) 決勝  
愛知県作手村鬼久保ふれあい広場

## 宮内・元木通過！

世界選手権予選2日目。ロング種目の予選が作手村菅沼地区で行われた。昨日のミドル予選では男女合わせて4名の予選通過者を出した日本は、本日も大量通過を狙う。

世界選手権のロング種目では、このところ日本は好成績を上げていない。いわば苦手種目だ。この日からは2004年度の日本チャンピオンである宮内佐季子と篠原岳夫が登場し、予選突破を狙う。初日の勢いがどこまで続くのかが注目された。



篠原岳夫、ロング予選会場横のビジブル区間を走る。ここではコーチングゾーンが設けられ、各国のコーチが自国選手に給水などのサポートを行う。



宮内佐季子  
ロング決勝の会場では声援に包まれる。  
宮内はスプリント、ロングとも予選突破し、リレーでも1走で大活躍。

女子は宮内が期待通り、14位で予選を通過した。

予想以上の戦果を上げたのは元木友子、12位という好成績で、5分を残して楽々予選通過したのだ。

昨日ミドル予選通過を果たした番場は16位で予選落ち。2日連続レースの疲れが無ければ、あと35秒あまり速ければ予選通過だった。

「女子ロング予選の結果は非常に満足している。普段通りのレースをすれば予選は通過するという実感を選手が持っている。」日本女子コーチの山岸はそう語る。

### ロング予選女子A組

1	マリアンヌ	ノルウェー	0:51:24
12	元木友子	日本	1:00:47
15	アントニヤ	ブルガリア	1:05:42

### ロング予選女子B組

1	シモーネ	スイス	0:47:07
15	ルウドミラ	ブルガリア	1:02:23
16	番場洋子	日本	1:02:54

### ロング予選女子C組

1	ブローニ	スイス	0:48:24
14	宮内佐季子	日本	1:00:42
15	ディアナ	リトアニア	1:02:43

## 男子は予選通過ゼロ

女子が好調を維持する一方、男子は苦杯を舐めた。ひとりも予選通過を果たせなかった。なんとボーダーギリギリの16位で予選通過できなかった者が2名もいるという、非常に惜しい結果となってしまった。

結果的にこの男子ロングだけ愛知世界選手権ではただひとつ日本人選手が決勝に進めなかった種目となった。やはり日本チームがロングに弱いというジンクスは本当だった。

今回の世界選手権では世界の實力者たちがミドルよりもロングに出場する傾向があり、これによってボーダーラインが跳ね上がったのも日本にとって厳しい結果をもたらす原因ともなっている。

「実力的にはもう少し足りないという程度に思うので、次回以降に非常に期待が持てる。」男子コーチの加賀屋はこう述べている。

### ロング予選男子 A 組

1	マルク	スイス	0:59:32
15	オンドレ	スロバキア	1:08:52
16	松澤俊行	日本	1:12:31

### ロング予選男子 B 組

1	アンドレイ	ロシア	1:03:21
15	トロイ	オーストラリア	1:10:40
21	篠原岳夫	日本	1:21:03

### ロング予選男子 C 組

1	ヤニ・ラカネン	フィンランド	1:02:33
15	クローズ	デンマーク	1:14:16
16	高橋善徳	日本	1:14:30



松澤俊行。ロング予選のビジブル区間で給水ボトルを地面に置く。周囲には多くの観客とコーチが見守る。ここまでがコースの3/4地点。

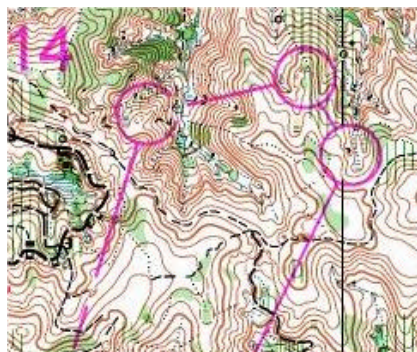


高橋善徳、ロング予選ビジブル区間にて。光る汗が暑さを物語る。

## ザ・オリエンテーリング

単に「オリエンテーリング」というと普通はこのロング種目のことを指す。そう、昔のオリエンテーリングはこのロング種目しか無かった。そこから発展したのがチーム競技としてのリレー、そしてよりビジュアル性を打ち出してきたミドル、スプリントの競技である。ミドル、スプリント競技に関してはまだ歴史が浅い。このロング種目は一時期クラシック種目とも呼ばれた。

世界のオリエンテーリングシーンにおいて最高峰の大会はもちろん世界選手権である。その世界選手権の中でも、ザ・オリエンテーリングともいふべき種目がこのロング種目なのだ。このロングの勝者こそが、今でも最も多くの尊敬を集める者となるのだ。



ロング決勝地図の一部。ながりの急傾斜

ロング決勝は広大な範囲を使用した。巨大な地図の端からスタートして地図の端にフィニッシュする。森の王者を決めるのにふさわしい贅沢な舞台だ。

## 宮内・元木夢の舞台を走る

決勝が暑さの厳しいレースになればなるほど、もともとアドベンチャーレース出身の宮内にとっては有利になる。

決勝の日は暑くなかったが、これまでの猛烈な暑さではなかった。それでも湿度は高く、北欧選手を苦しめた。

そんな中、宮内は世界の選手と互角に競い合った。結果32位。入賞にはまだまだ遠いが、今までの日本の成績を考えると、もう堂々たる結果だ。



元木友子。ロング決勝。多くの選手にマクられながらもフィニッシュラインまで逃げ切る。

一方、予選では好成績を叩き出した元木友子は序盤からつまずき、全体的に冴えないレース展開。さらに給水コントロールで痛恨のパンチ忘れを犯し、失格となってしまった。



フィニッシュ後、大会役員から失格が通告され愕然の元木友子

両名とも世界最高の舞台で各国の選手とわたりあったという事実は揺るぎようがない。日本選手を応援する我々も大いに誇りに思っている

それよりも、ザ・オリエンテーリングともいうべきロング種目の決勝に日本人男子が参加できないなんて、これほど開催国として悔しいことはない。

来年デンマークで行われる世界選手権では、ぜひともその鬱憤を晴らしてもらいたい。



ロング男子で優勝した  
アンドレイ・ハラモフ(ロシア)

## ロシア初めての金

フィニッシュレーンの中、ロシア国旗が舞う。アンドレイ・ハラモフがザ・オリエンテーリングことロング種目の男子チャンピオンとなった。ほぼ最終



優勝したシモーネ(スイス)と3位のブローニ(スイス)  
フィニッシュ後にお互いの健闘を称え、喜びあふ

スタートだったアンドレイが最終コントロールを通過するタイムを見てロシアのコーチは優勝を確信、アンドレイに国旗を渡したようだ。

日本の暑さ、湿気に北欧の選手は随分悩まされた。短い距離ならまだしもロング種目で慣れない暑さは厳しい。でもアンドレイのロシアは寒い国ではないのか？ いやいやロシアは広い。寒い地方ばかりではないのだ。このマガジンの松澤氏の記事でそれは明らかになった。

ロシアは今まで日本遠征を行っていない。しかし6月1日、6月4日に行われたロシア国内でのWOC選考会でも山岳系のテレインが使用され、2日ともアンドレイが優勝を納めている。愛知での世界選手権を目指して各国とも真剣にその対応をしてきているのだ。

## 歓喜のスイス

スイスチームは歓喜に沸いた。まずシモーネが優勝し、愛知世界選手権の個人種目の完全制覇を成し遂げた。そしてスイス女子のブローニも3位。さらにスイス男子のマルク・ローエンセンが2位に入った。

ロング種目男女あわせて6個のメダルのうち、なんと3個をスイスがかっさらって行ってしまった。

愛知は山岳系テレインということでスイス勢の健闘は事前に予測できた。予選ではシモーネ、ブローニ、マルクの3名が各組トップ通過を果たし、こ

の種目の活躍が期待されていた。それにしては予想を上回るスイスの大活躍だった。



ハイタッチで喜ぶブローニとマルク(スイス)

一方、ミドル男子3連覇を成し遂げたフランスのティエリーが今回の世界選手権からロングに初挑戦。さてどこまで上位に食い込むかが注目された。

結果は7位。やっぱりロングは別物だよなと思う反面、さすがティエリーという感じもする。

### ロング女子決勝

1	シモーネ	スイス	1:13:23
2	ヘリ	フィンランド	1:15:35
3	ブローニ	スイス	1:17:49
32	宮内佐季子	日本	1:45:47
	元木友子	日本	DISQ

### ロング男子決勝

1	アンドレイ	ロシア	1:37:22
2	マルク	スイス	1:39:30
3	ホルゲン	ノルウェー	1:42:09

(木村佳司)